

1 主要事業の進捗状況

基本方針1 住み慣れた地域でお互いを支え合う地域共生社会づくり

第1節 地域包括支援センターの機能強化と地域共生社会の構築（P28～32）

① 地域包括支援センターの機能強化

【R7年度上半期 自己評価等】

介護支援専門員不足が深刻な状況であり、居宅事業所への委託件数を増やして何とか運営している状況である。7月から1名確保できたが、引き続き安定した事業運営に向けて今後も人材不足解消に努めていく。

② 地域ケア会議の推進

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
P30	包括ケア会議の開催回数	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		1回	1回	1回	0回	1回	
	地域ケア会議の開催回数	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		35回	9回	35回	4回	35回	
	地域ケア個別会議の開催回数	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		6回	6回	6回	3回	6回	

【R7年度上半期 自己評価等】

・地域に設立されている高齢者支援協議会を地域ケア会議と位置付けており、気になる高齢者の情報共有や地域での困りごとの把握等を行っている。今年度は会長が変わった協議会が多いこともあり、開催数が少なくなっているとも思われるため、今後開催について呼びかけをしていきたい。

③ 地域共生社会の実現に向けた取組

ア 高齢者台帳の整備

【R7年度上半期 自己評価等】

高齢者支援協議会で聞きとった情報等により台帳を更新し、必要な時に活用できるよう管理している。

イ 生活支援コーディネーターの配置

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
P31	生活支援コーディネーターの配置数	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		3人	2人	3人	4人	3人	

【R7年度上半期 自己評価等】

令和7年度から生活支援体制整備事業業務（生活支援コーディネーター）を社会福祉協議会とNPO法人に委託している。市内の連絡会を月1回、種子島地区の連絡会を4カ月に1回開催し、地域課題の共有等を行っている。

第2節 認知症施策の総合的な推進（P33～36）

① 認知症に関する理解促進

【R7年度上半期 自己評価等】

認知症への正しい理解を促進するため、認知症サポーター養成講座の開催や鉄砲祭りの宣伝パレードにて周知活動に努めた。また、9月の認知症月間では、映画上映会や認知症カフェ、もの忘れ相談会、市民からのメッセージ展示など啓発活動に取り組んだ。映画上映会に300名程度の参加があり、市民の認知症への関心が高まってきていると感じる。

② 早期発見・早期対応システムの充実

ア 認知症初期集中支援チームの設置

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
P35	認知症初期集中支援チーム	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
	員会議の開催回数	12回	10回	12回	6回	12回	
	認知症初期集中支援チーム	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
	検討件数	40件	25件	40件	10件	40件	

【R7年度上半期 自己評価等】

2件はチーム員訪問にて現状把握を行い、その後の支援方針を協議した。その他包括で対応に苦慮しているケースについてチーム員からの助言をもらっている。

イ 認知症高齢者見守りネットワーク事業の推進

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
P35	見守り台帳登録者数	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		10人	10人	10人	5人	10人	

【R7年度上半期 自己評価等】

5月に登録者の見直しを行い、当初9名のうち介護度の重度化による外出困難、施設入所、死亡等により登録者が減少し、新規1名を加えて5名となった。しかし、各関係機関・市民へ認知症啓発活動を行うことで、「認知症の方を地域で見守る」という意識ができていたことが確認できた。今後も、認知症高齢者等の早期発見と保護、地域における見守り体制を整備していきたい。

③ 認知症の方とその家族への支援

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
P36	認知症カフェ設置箇所数	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		3箇所	2箇所	4箇所	2箇所	5箇所	

【R7年度上半期 自己評価等】

認知症疾患医療センター主催のカフェは、相談機会が充実してきている一方、参加者に固定化が見られ、カフェへの新たな参加者を呼び込むため、市公式のSNSへの掲載等で広報周知の後方支援を行っている。また、包括独自の認定証カフェを映画上映会と同時開催し、参加者が日頃の思いを皆で共有する機会となった。

④ 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の方への支援

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
P36	認知症サポーター養成講座の開催回数	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		5回	9回	5回	4回	5回	
	認知症サポーター登録者数	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		2,400人	2,341人	2,480人	1,913人	2,560人	
チームオレンジ設置数	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績	
	1チーム	1チーム	1チーム	1チーム	1チーム		

【R7年度上半期 自己評価等】

高齢者支援協議会や病院のデイケア参加者、スタッフに対して認知症サポーター養成講座を開催した。また、認知症月間に併せて市民向けの講座を開催したが、再受講者の参加が多く、新規受講者の人数があまり伸びなかった。認知症サポーター登録者数は、名簿の整理を行ったため減となっている。引き続き広報を行い、新規受講者の参加促進に努めていきたい。

第3節 在宅医療・介護連携の推進（P37～38）

① 地域住民への普及啓発

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
P37	在宅医療に関する普及啓発活動回数	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		3回	2回	3回	1回	3回	

【R7年度上半期 自己評価等】

8/31に市民へ向けて、鹿児島市で在宅医療に長年携わっている医師を講師として招き、ACPについての講義を行った。参加者アンケートでも好評であった。今後とも市民へ向けた普及啓発に努めていきたい。

② 医療・介護関係者の研修

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
P38	多職種連携研修会の実施回数	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		2回	2回	2回	1回	2回	

【R7年度上半期 自己評価等】

8/30に医療・介護従事者へ向けて、鹿児島市で在宅医療に携わっている医師を講師にACPについて研修会を行った。31名の多職種の参加があり、ACPについての考え方について意見交換も行うことができた。

③ 医療・介護関係者の情報共有の支援

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
P38	介護・医療合同会議の実施回数	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		2回	2回	2回	0回	2回	

【R7年度上半期 自己評価等】

上半期は合同会議を開催することは出来なかったが、10/21に8/30のACPの研修会で講師から紹介のあった「ACP連携シート」の活用について会議を行う予定である。

基本方針2 健康づくり・介護予防の推進

第4節 自立支援、介護予防・重度化防止への取組の推進（P39～49）

③ 介護予防・日常生活支援総合事業の推進

ア 介護予防・生活支援サービス事業の充実

〈通所型サービス利用者数〉

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
P46	通所介護相当サービス	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		1,000人	1,165人	1,000人	584人	1,000人	
	通所型サービスA（緩和した基準によるサービス）	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		800人	666人	800人	305人	800人	
通所型サービスC（短期集中予防サービス）	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績	
	100人	49人	100人	29人	100人		

【R7年度上半期 自己評価等】

通所型介護相当サービスは、利用者数が年々増加傾向にある。今年度から、中割・立山地域の方がサービスを受けられるように、NPO法人こすもに依頼し、共生型通所介護相当サービスの実施を検討中である。

〈訪問型サービス利用者数〉

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
P47	訪問介護相当サービス	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		800人	698人	800人	261人	800人	
	訪問型サービスC（短期集中予防サービス）	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		1人	0人	1人	0人	1人	

【R7年度上半期 自己評価等】

訪問型サービスについては、前年度と比較すると上半期時点での利用者数が減少しているが、事業所の減少や人手不足、職員の高齢化等により受け入れる余裕がなく、サービスを必要としている利用者がサービスを受けられないケースが出てきている。

イ 一般介護予防事業の充実

◆介護予防普及啓発事業

【R7年度上半期 自己評価等】

鹿児島大学病院等と連携し、口腔機能や身体機能、栄養状態、社会参加の状況などを総合的に評価し、健康寿命延伸につなげる「種子島スタディ」を松島・平田地域で開催し、17人の参加があった。また、認知症予防の取組として簡単な読み・書きや計算等を仲間と一緒に楽しみながら行う「脳の健康教室」を20回開催し、10月には市民向けに体験会を予定している。

◆地域介護予防活動支援事業

【R7年度上半期 自己評価等】

介護予防の取組として、各地域において元気アップ教室の活動が行われているが、令和6年度からグループポイント事業の登録条件に元気アップ体操を必須としたことから、継続した活動を実施できている。今後も健康運動指導士等による巡回フォローを行い支援をしていきたい。

◆介護予防把握事業

【R7年度上半期 自己評価等】

榕城校区内の一部地域への実態調査を行い、早い段階で介護予防につなげ、困りごとの支援につなげた。

◆一般介護予防事業評価事業

【R7年度上半期 自己評価等】

介護予防体操を普及して10年経過するため、体操の効果を確認できる項目など年度末に評価できるよう市内のグループの参加状況等をまとめていく。

◆地域リハビリテーション活動支援事業

【R7年度上半期 自己評価等】

各地域の介護予防体操に理学療法士や健康運動指導士が巡回することで、個別に助言が必要な方への個別指導を行った。事業所への派遣については意向確認を行い、必要に応じてリハ職派遣を展開していきたい。

④ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施

【R7年度上半期 自己評価等】

国保年金係と連携し、介護予防体操を実施しているグループに対して、専門職による健康講話や体力測定会を実施し、フレイル予防に取り組んでいる。

⑤ 保険者機能強化推進交付金等を活用した施策の充実・推進

【R7年度上半期 自己評価等】

一人暮らしの高齢者世帯や高齢者夫婦のみの世帯の増加、認知症高齢者の増加とともに、今後ますます介護サービスの需要は増加・多様化していくことが見込まれるが、人材不足等により対応が困難になってきている。引き続き、地域社会全体で高齢者を支える「地域包括ケアシステム」の推進に取り組むとともに、健康づくりやフレイル予防のための支援を行っていく。

⑥ リハビリテーションサービス提供体制構築のための取組

【R7年度上半期 自己評価等】

介護予防体操を実施するグループに理学療法士を派遣し、体操の姿勢の確認や個別相談・個別指導を行った。また、歯科衛生士による口腔体操の普及を図っている。口腔体操のフォローが不十分なため、今後はフォロー体制を整えていく。

基本方針3 安心安全に暮らせる生活環境の整備

第5節 日常生活を支援する体制の整備（P50～59）

① 在宅生活を支援するサービスの充実

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
		目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
P53	通報装置設置台数	70台	48台	70台	43台	70台	
		目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
	住宅改修に係る理由書作成 助成の申請件数	10件	2件	10件	1件	10件	

【R7年度上半期 自己評価等】

- ・通報装置については、今年度新規設置台数は2台で、43台の設置となっている。施設入所や死亡、また固定電話の解約等により設置台数が減少傾向にあるため、今後は通報システムに代わる見守りシステムの検討も必要になってくると思われる。
- ・住宅改修に係る理由書作成助成については、上半期は1件となっている。申請件数は少ないが住宅改修のみを希望する方に対し、ケアマネジャーへの支援は今後も必要と考える。

② 家族介護者への支援

ア 介護に係る経済的負担の軽減

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
		目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
P54	介護手当支給人数	86人	73人	90人	50人	90人	
		目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
	紙おむつ支給人数	612人	546人	620人	436人	620人	

【R7年度上半期 自己評価等】

- ・紙おむつ支給事業は、依然として介護度が軽度の対象者等からの申請が増加してきている。
- ・介護手当は、申請者が減少しており、上半期に広報誌にて事業の周知を行った。

イ 介護者への支援相談

【R7年度上半期 自己評価等】

家族介護者交流支援事業では、各関係機関窓口にてチラシ掲示、SNS・広報誌等での周知を図ったが、参加者の固定化がみられ、新規参加者の増加には繋がらなかった。今後も、幅広い年齢層の介護者を対象として、ニーズに沿った内容で取り組んでいきたい。

③ 高齢者の虐待防止と権利擁護の取組の推進

ア 高齢者虐待に関する相談・支援

【R7年度上半期 自己評価等】

相談件数 3件

関係機関と連携し、終結に向けた介入支援に取り組んでいる。今後も市民への周知を継続するとともに、各サービス事業所における高齢者虐待対応の理解促進を目的に、研修会の開催やマニュアル作成を進めていきたい。

イ 成年後見制度の周知と利用促進

【R7年度上半期 自己評価等】

前年度に居宅介護支援事業所等・地域サロン向けに研修・講話をしていたことから、地域住民や居宅CMからの相談が数件あった。その中で市町村申立ての事例はなかったが、既に後見相当の親族申立てを各関係機関と連携しながら後方支援した。後見人受任者不足で専門職の受任件数に偏りがあることから、今後は基幹センターを中心に市民後見人育成や任意後見制度の普及・啓発に努めていきたい。

ウ 感染症対策の推進

【R7年度上半期 自己評価等】

運営指導等により各事業所で策定しているBCPに基づき、定期的な研修や訓練が行われているか確認を行った。

⑤ 住まい環境の充実

イ 安心できる住まいの確保

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
		目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
P57	有料老人ホーム	4棟	5棟	4棟	5棟	4棟	
		39人	44人	39人	45人	39人	
	サービス付き高齢者向け住宅	1棟	1棟	1棟	1棟	1棟	
		13人	13人	13人	13人	13人	

【R7年度上半期 自己評価等】

昨年度、新たに有料老人ホームが1棟開所されたが、今年度は新規開設の動きはない。サービス付き高齢者住宅ともに満室の状況であり、措置入所者についても待機者が多い状況である。

基本方針4 高齢者や家族が健やかで生きがいに満ちたライフスタイルの確立

第6節 生きがいづくりや社会参加の促進（P60～64）

① 社会参加の促進と活動機会の充実

イ 地域貢献・交流活動への参加促進

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
P62	元気アップ体操の実施箇所数	目標 60箇所	実績 59箇所	目標 60箇所	上半期実績 56箇所	目標 60箇所	実績
	元気アップ体操に参加する高齢者の数	目標 1,200人	実績 1,263人	目標 1,200人	上半期実績 1,036人	目標 1,200人	実績
	いきいき遊湯クラブ実施回数	目標 50回	実績 9回	目標 50回	上半期実績 6回	目標 50回	実績

【R7年度上半期 自己評価等】

・元気アップ体操の参加者数に関しては、名簿の整理を行ったため減となっているが、地域ごとに継続的に開催できている。今後も健康運動指導士等による巡回フォローを行い支援をしていきたい。

・敬老の日記念事業「長寿を祝う会」を9月12日に開催し、88歳対象者116名のうち26名の参加があった。今回のアトラクションは、日本舞踊、きりすとこども園のダンス、種子島中学校吹奏楽部の演奏と子どもたちから元気をもらえるような内容とした。今後もより多くの市民の方々に参加していただけるよう内容を工夫していきたい。

・老人クラブについては、令和7年度11団体となっており、昨年度から5団体減少した。それに伴い、市老人クラブの運営が困難になり、運営補助の増額を補正にて対応した。役員の担い手不足も課題であるため、提出書類の簡素化等、継続支援に努めていきたい。

・高齢者地域支え合いグループポイント事業には67グループ、元気度アップ・ポイント事業には1,036人、介護人材確保ポイント事業には325人が登録している。今年度は介護人材不足の一助になればと、介護人材確保ポイント事業のポイント見直しを行うとともに、施設ボランティア募集のチラシを作成・配付した。

・いきいき遊湯クラブについては、毎回同じ団体が利用している。事業自体があまり知られていないように思われるため、広報紙等で周知していきたい。

② 地域における支援者の人材確保・育成

ア 高齢者支援協議会の設置推進

【R7年度上半期 自己評価等】

今年度は、昨年度から1協議会（寺之門地域）増え、38協議会が設置されている。主にゴミ出し支援が行われている。

イ 支援者・地域支え合い推進員の育成・研修の充実

【R7年度上半期 自己評価等】

支援者への研修会は、5回を予定し、9月末までに4回を開催した。内容は、医師や警察官による講話、認知症サポーター養成講座等を実施し、支援者としての知識を深める良い機会となった。また、支援者のニーズに応じた内容で実施したことにより、参加者が増加した。

③ 元気高齢者の活躍できる場の確保・就労の促進

ア シルバー人材センターの活動支援

【R7年度上半期 自己評価等】

シルバー人材センターへは運営補助を行っているが、事務経費の増加や会員不足等により運営が困難になっているとの相談があった。今後は、会員確保の広報や新たな職の開拓、手数料・賃金の見直し等の改善を実施していただき、高齢者の働く場につながるよう、市としても支援内容の検討をしていきたい。

イ 就労的活動支援コーディネーターの配置の検討

【R7年度上半期 自己評価等】

具体的な検討はしていないが、シルバー人材センターやハローワーク等と連携し、高齢者の能力に応じた就労の確保につながるよう支援していく。

基本方針5 介護福祉サービスの充実と安定した提供体制の確保

第7節 介護サービス提供基盤の確保・充実（P65～69）

① サービス提供基盤の整備

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
		目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
P67	地域密着型通所介護事業所数	10事業所	8事業所	11事業所	8事業所	11事業所	

② 介護人材の確保及び資質の向上

ア 事業者の人材確保・育成に対する支援

【R7年度上半期 自己評価等】

UIターン者2人、市内在住就職者0人、勤続者9人に奨励金等を交付した。新規の就労者確保への支援も行いながら、既に介護事業所で勤めている方が勤続できるよう環境整備等の支援に努めたい。

イ 介護スタッフの専門性向上に向けた研修

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
		目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
P68	居宅介護支援事業所等支援 会議回数	12回	12回	12回	5回	12回	

【R7年度上半期 自己評価等】

疾病に対する知識の向上や感染対策の技術習得、事例研究等を実施し、質の向上に努めた。年2回は多職種を含めた研修会を実施し、顔の見える関係づくりに取り組んでいく。

③ 介護現場の生産性向上に向けた支援

【R7年度上半期 自己評価等】

7月に実施した集団指導において、ケアプランデータ連携システムに関する内容を取り上げ、各介護事業所において導入に向けた検討を行うよう依頼した。また、鹿児島県介護生産性向上総合相談センター（通称：かごロボ）から講師を招聘し、介護現場におけるICTの活用による業務改善をテーマに、島内の事業所へ向けた研修会を10/16に行う予定である。

第8節 介護保険事業の適正な運営（P70～77）

① 介護保険給付の適正化

◆要介護認定の適正化

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
P75	要介護認定における重度変更率の平準化	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		10.0%	13.5%	9.0%	12.7%	8.0%	

【R7年度上半期 自己評価等】

R6と比較し、0.8%減少したが目標値より3.7%高い結果となった。適正化や標準化を図る為に、重度変更がよく行われている事例を全合議体において検討したが、効果はあまり得られなかったように感じる。

今後は、他自治体の情報等を共有して、受付から2次判定までの流れを精査し、適正化及び標準化を図ることで重度変更率の標準化を目指していきたい。

◆ケアプラン点検

※8事業所（居宅介護支援7、予防支援1）が対象

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
P75	ケアプラン点検数 4/8事業所（※）	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		4事業所	3事業所	4事業所	0事業所	4事業所	
	ケアマネジメント研修	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		1回	1回	1回	1回	1回	

【R7年度上半期 自己評価等】

- ・ケアプラン点検については、今年度は3事業所のケアマネジャーを対象に実施予定としている。
- ・ケアマネジメント研修については、今年度は生産性向上についての知識、手段等を再認識してもらう機会として10月16日に島内介護サービス事業所を対象とした研修会を実施する。

◆住宅改修の点検

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
P75	施工前現地確認	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		100%	100%	100%	100%	100%	
	リハビリテーション専門職による点検	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		15%	80%	15%	79%	15%	

【R7年度上半期 自己評価等】

・施工前現地確認については全件立ち合いを実施しており、利用者の身体状況に適した住宅改修が施工できるよう支援できている。また本課所属の理学療法士が現地確認に同行しており、専門的な助言、指導ができる体制を整えている。

◆福祉用具購入・貸与の調査

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
		目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
P75	福祉用具の購入・貸与訪問調査	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		24件	15件	24件	0件	24件	

【R7年度上半期 自己評価等】

福祉用具購入・貸与調査については下半期に実施予定としており、今年度はショートステイを長期利用しており施設でレンタルしている方、施設入所中でレンタルしている方も対象として調査する予定。

◆縦覧点検

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
		目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
P75	縦覧点検分析結果を適正化事業に活用	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		12回	8回	12回	6回	12回	

【R7年度上半期 自己評価等】

ショートステイを長期利用している利用者の申請書が提出されているかの確認に「算定期間回数制限縦覧チェック一覧表」を活用し、毎月チェックしている。また、「軽度者の要介護者にかかる福祉用具貸与品目一覧表」、「認定調査状況と利用サービス不一致一覧表」、「福祉用具貸与費一覧表」を活用し福祉用具貸与が適正に行われているか確認している。

◆医療情報との突合

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
		目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
P75	医療費情報突合リストによる点検	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		100%	100%	100%	100%	100%	

【R7年度上半期 自己評価等】

国保連合会の審査情報（医療給付情報突合リスト）を使い、健康保険課のレセプト点検係と連携し、医療と介護の給付が重複したり、同時に成立しない不当請求等の確認作業を行い、過誤の発見に努めた。過誤処理に繋がるケースはなかった。

◆適正化事業の体制強化

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
		目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
P75	見える化システムを活用した地域間分析	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		1回	0回	1回	0回	1回	
P75	取組に対する目標達成状況の公表	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		2回	1回	2回	1回	2回	

【R7年度上半期 自己評価等】

- ・見える化システムを活用した地域間分析については、下半期に実施予定としており今年度は市内介護サービス事業所にも展開し、一体となって課題に対しての検討を行う。
- ・目標達成状況の公表については、今回の運営協議会で上半期の振り返りと年度末にかけて令和7年度の振り返りを行う予定としている。

② 円滑な運営のための体制づくり

ア 介護保険制度の周知・積極的な情報提供

【R7年度上半期 自己評価等】

介護保険リーフレット「わたしたちの介護保険 利用の手引き」の見直しを行い、内容を改めたリーフレットを作成した。リーフレットを活用し、相談にこられた方等に分かりやすい情報提供を心掛けている。また、榕城校区から市政出前講座による講師派遣依頼があり、9/26に市民会館において「介護保険制度について」と題した講義を行った。

イ PDCA サイクルの確立による効果的な事業運営

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
P75	施策の達成状況の公表（HP）	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		2回	1回	2回	1回	2回	

【R7年度上半期 自己評価等】

毎年度2回、主要施策の取組に対する目標の達成状況を確認し進捗管理を行っている。本年度は1回目として、令和6年度実績に基づく評価を5月に行い、自己評価シートをホームページ上に公開した。2回目は令和7年度上半期の中間評価を行う。11月開催の運営協議会へ報告したのち、市ホームページに掲載し公表する予定。

③ 介護事業所の適正運営に向けた取組

掲載頁	評価指標	R6		R7		R8	
P76	運営指導（居宅介護支援事業所、地域密着型サービス	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		5事業所	3事業所	5事業所	4事業所	5事業所	
P76	集団指導（居宅介護支援事業所、地域密着型サービス	目標	実績	目標	上半期実績	目標	実績
		100%	100%	100%	100%	100%	

【R7年度上半期 自己評価等】

- ・運営指導については、9月、10月に居宅介護支援事業所1カ所、地域密着型サービス事業所3カ所の計4事業所に実施した。
- ・集団指導は7月に実施し、全事業所が参加されている。今年度は熊毛支庁指導監査介護係職員に出席を依頼し、県が主体となって実施している「介護人材確保対策事業」に関する内容についても説明を行っていただく機会を作った。